

オトナ回課外授業 2025

【発売日】
2025年7月7日(月)



サラマンカ
オンラインチケット

【チケットのお求め】 サラマンカホールチケットセンター 窓口、電話 058-277-1110(9:00~21:30)

【特別授業】知っておきたい古典 その3 二人でたどる「能楽の四季」

2025年10月19日(日) 14:00~16:00 (受付13:30)

昨年大好評だった「ふたりでたどる能楽」の第2弾。今能楽界で最も人気のあるシテ方と囃子方のお二人が、舞台の間合をぬってサラマンカホールに登場する贅沢な特別授業。今回は能の演目で、春夏秋冬、四季を織りなす京都、岐阜、長野、奈良を旅します。春は「鞍馬天狗」で牛若丸と鞍馬の

大僧正(天狗)の出会いの場面を謡い、夏は「鶉飼」の漁師の物語。秋には紅葉の美しい信州長野で「紅葉狩」をして、冬には雪に閉ざされる大和盆地に横たわる山「葛城」。日の沈む山々にはどんな物語が隠されているのでしょうか？日本各地に残る伝説から紐解く能楽の魅力を紹介します。

講師：辰巳満次郎(宝生流シテ方)、大倉源次郎(小鼓方大倉流十六世宗家 人間国宝)

会場：サラマンカホール 定員：100名 料金：全席自由 2,000円 [サラマンカメイト：1,800円]



【シリーズ5】いずみ凜とイッパイアッテナ

～オペラシアターこんにゃく座 オペラ『ルドルフとイッパイアッテナ』を脚本家が語る

2025年9月28日(日) 14:00~16:00 (受付13:30)

突然あなたの名前を呼ぶ声が聞こえたら、あなたはどうしますか？

思わず返事をしてしまうかも？それとも振り向いて、声の主を探すでしょうか？どこから聞こえたのか、誰が呼んでいるのか、気になりますよね。どんなふうに呼ばれたかでもきっと違います。明るく声をかけられたらどうでしょう？泣きそうになってあなたを呼んでたら？大声で怒鳴られたら、あわてて隠れちゃうかもしれませんね。声を持ついろんな要素がわたしたちを動かします。声、ハーモニーの魅力、また、オペラやミュージカルのような演劇について、オペラ『ルドルフとイッパイアッテナ』のことを交えてお話しします。



講師：いずみ凜(脚本家)

会場：OKBふれあい会館 14階 展望レセプションルーム

定員：80名 料金：1,000円

関連
公演

オペラシアターこんにゃく座 オペラ「ルドルフとイッパイアッテナ」
2025.12/21(日) 14:00開演(13:30開場)

全席指定3,000円(サラマンカメイト2,700円) 小学生以下500円
サラマンカメイト先行発売2025.9/22(月) 一般発売2025.9/29(月)

【シリーズ6】らら星のかなた

～伊藤比呂美が語る谷川俊太郎

2025年11月9日(日) 14:00~16:00 (受付13:30)

『らら星のかなた』は、谷川俊太郎さんと伊藤比呂美さんとの対談集のタイトルで、谷川俊太郎さんの『鉄腕アトム』の歌の中の一節です。俊太郎さんは「星のかなた」に、たぶん、二十億光年くらい遠い「星のかなた」に戻っていったのでしょう。俊太郎さんとはまったく違うスタイルの詩人、伊藤比呂美さんに俊太郎さんと語ったことを伺います。



講師：伊藤比呂美(詩人)

会場：OKBふれあい会館 3階 302大会議室

定員：100名 料金：1,000円

【主催】サラマンカホール 岐阜市藪田南5-14-53

ネット予約は公式サイト
「サラマンカ・オンラインチケット」で

サラマンカホール

検索



【シリーズ7】知っておきたい古典 その4 「能というのは、どういう芸能か」

2025年12月6日(土) 14:00~16:00 (受付13:30)

「能はむずかしい」と、多くの人が思っている。たしかに難しい古語で書かれているし、その演技も舞も音楽も、馴れない耳目にはなんだか不思議な別世界のように映る。私も初めて能を見たときはそう思った。しかし、よくよくその詞章・楽音・演技を味わってみると、じつは私どもの現代生活と全く無縁な絵空事というわけではなくて、生きている限り誰もが直面する喜怒哀楽と真摯に向き合って作劇されたものだと解ってくる。「神・男・女・狂・鬼」と分類される能のコンセプトの背後に、どんな普遍的な「生きている感情」が込められているか、またさらにその背後に、日本人が太古の昔から抱いてきた死生観や神観念がどのように息づいているか、そういう大きな視野から、能楽という芸能を腑分けしてみたいと思う。解ってみれば、な一ほ、能は面白いのである。



講師：林望(作家・国文学者)

会場：OKBふれあい会館 14階 展望レセプションルーム

定員：80名 料金：1,000円

関連
公演

サラマンカ能 その参 古典芸能とパイプオルガンの出会い
2026.2/1(日) 14:00開演(13:30開場)

全席指定S席5,000円 A席3,000円(サラマンカメイトS席4,500円 A席2,700円)
サラマンカメイト先行発売2025.10/9(木) 一般発売2025.10/16(木)

【シリーズ8】すごいジャズには理由がある

2026年1月24日(土) 14:00~16:00 (受付13:30)

ジャズは「洒落たバーに流れるムード・ミュージック」などではありません。ジャズはクラシック以上に構造的な理解を要求する音楽です。でも同時に洒落たBGMなのです。ここが面白いところです。こうしたジャズの魅力的な二面性を楽しむコツの手引きが出来れば幸いです。



講師：岡田暁生(京都大学名誉教授)

会場：サラマンカホール リハーサル室

定員：60名 料金：1,000円

関連
公演

山中千尋トリオ バレンタインコンサート
2026.2/8(日) 14:00開演(13:30開場)

全席指定S席4,000円 A席2,000円(サラマンカメイトS席3,600円 A席1,800円)
サラマンカメイト先行発売2025.10/31(金) 一般発売2025.11/7(金)

【特別授業】

10月19日(日)

辰巳満次郎(宝生流シテ方)

1959年神戸生まれ。父・故辰巳孝に師事し4歳で初舞台。東京藝術大学音楽学部邦楽科卒業。18世宗家故宝生英雄(ふさお)の内弟子となり、1986年独立。

東京大阪間の東海道を中心に全国で公演や実技指導、普及活動を行うとともに、多くの海外公演も参画する。新作活動にも意欲的で、2018年と2021年にはサラマンカホールにて、「サラマンカ能」を演出・主演。パイプオルガンと舞う能舞「SALAMANCA」、能舞「SHISHI」を制作した。2001年重要無形文化財総合指定の認定。2005年度大阪文化祭奨励賞受賞。(一社)日本能楽会会員。(公社)宝生会会員。「七宝会」「満次郎の会」「異会」「宝生流あまねく会」主宰。2020年(一社)日本芸術文化戦略機構(JACSO)を設立、現在名誉理事長。



大倉源次郎

(小鼓方大倉流十六世宗家 人間国宝)

人間国宝。(公社)能楽協会副理事長。(一社)日本能楽会会員。小鼓方大倉流十六世宗家。1957年大阪生まれ。父十五世宗家大倉長十郎に師事。1964年独鼓

「鮎の段」にて初舞台。1981年甲南大学卒業。1985年十六世宗家を継承。2017年に重要無形文化財保持者各個人認定(人間国宝)。大阪文化祭奨励賞、咲くやこの花賞(大阪市)、大阪舞台芸術奨励賞(団体)、大阪文化祭賞(団体)、観世寿夫記念法政大学能楽賞などを受賞。流派を越えて21世紀の能を考える「能楽座」座員。新作能、復曲能に数多く参加すると共に海外公演も多い(パリやニューヨークなど25か国で延べ30ツアー以上、45公演以上)。著書に『大倉源次郎の能楽談義』(淡交社)、『能から紐解く日本史』(扶桑社)、『能の起源と秦氏』(ヒカルランド)がある。



【シリーズ5】

9月28日(日)

いずみ凜(脚本家)

劇作家。岐阜県出身。劇団はぐるまに入団。89年NHKのラジオドラマ執筆をきっかけに脚本家としての活動を開始。NHKラ



左/小林ゆず子(オペラシアターこんやく座オペラ『ルドルフとイッパイアッテナ』ルドルフ役) 右/いずみ凜

ジオ『お話でこい』の脚本を十数年にわたり執筆。劇団はぐるま退団後、東京演劇アンサンブルを経て、舞台脚本を中心に執筆活動に入る。児童青少年に向けた作品が多く、子どもからおとなまで共に観て語り合える演劇をめざしている。劇団仲間『カモメに飛ぶことを教えた猫』は東京都優秀児童演劇選定優秀賞を受賞し300ステージを超えた。『ナガサキ/グラフィティ』(劇団道化)で第39回斎田喬戯曲賞優秀賞受賞。第23回O夫人児童青少年演劇賞受賞。

【シリーズ6】

11月9日(日)

伊藤比呂美(詩人)

1955年東京生まれ。詩人。性と身体性をテーマに過激な言葉づかいと独特なリズムの詩で現代詩を揺さぶるかたわら、自らの体験を綴った育児エッセイという分野を開拓。近作では語りを基盤に、古典や仏教への興味を打ち出し、古典やお経の現代語訳も手がける。近著に『森林通信』、谷川俊太郎との対談集『らら星のかなた』他。2018年に長年のカリフォルニア生活を引上げ、現在、熊本在住。



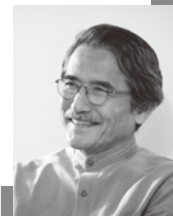
©吉原洋一

【シリーズ7】

12月6日(土)

林望(作家・国文学者)

作家・国文学者。慶應義塾大学大学院博士課程満期退学。元東京藝術大学助教授。『イギリスはおいしい』で日本エッセイストクラブ賞、『ケンブリッジ大学所蔵和漢古書総目録』で国際交流奨励賞受賞。『謹訳源氏物語』全十巻で毎日出版文化賞特別賞受賞。エッセイ・小説等著書多数。『すらすら読める風姿花伝』『能の読みかた』『謹訳世阿弥能楽集』等能楽関係著作のほか小金井新能の創始に参画。観世宗家清和師と共に新作能『聖パウロの回心』創作。能楽公演解説出演多数。最新作『恐くて美しい能の女たち』。

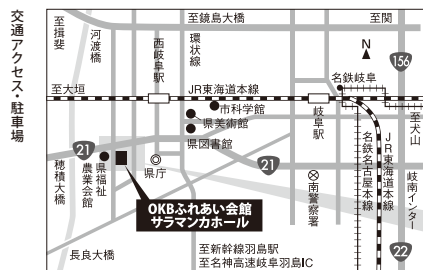


【シリーズ8】

1月24日(土)

岡田暁生(京都大学名誉教授)

1960年、京都府生まれ。音楽学者、京都大学名誉教授。大阪大学大学院博士課程単位取得満期退学。1991年までミュンヘン大学およびフライブルク大学に留学。2001年に『オペラの運命』でサントリー学芸賞受賞、2009年に『ピアニストになりたい!』で芸術選奨新人賞、『音楽の聴き方』で吉田秀和賞受賞。十九世紀のオペラおよびピアノ音楽の研究から出発し、近年ではジャズ史とも取り組んでいる。近刊に『モーツァルト』(ちくまプリマー新書)およびコロナ時代の音楽を論じた『音楽の危機』(中公新書:小林秀雄賞受賞)が話題を呼んだ。



公共交通機関

- JR岐阜駅(北口)より「岐阜バス」で約20分
- 名鉄岐阜駅より「岐阜バス」で約25分
- JR西岐阜駅(南口)より「西ぎふ・くるくるバス」で約12分
- JR東海道本線・名古屋駅から西岐阜駅まで約23分

自動車

- JR西岐阜駅から車で約5分(南口タクシー乗り場より約2km)
- JR東海道新幹線・岐阜羽島駅および名神高速道路・岐阜羽島IC、東海環状自動車道・岐阜ICより車で約25分
- 東海北陸自動車道・岐阜各務原ICより車で約30分
- 無料駐車場完備